

令和6年度  
北村山広域行政事務組合教育委員会  
事務事業点検・評価報告書  
(令和5年度事業分)

北村山広域行政事務組合教育委員会



## 目 次

1	北村山広域行政事務組合教育委員会事務事業の点検・評価について	4
	(1) 制度の概要及び目的	
	(2) 点検・評価の対象事業	
	(3) 点検・評価の方法	
2	教育委員会の活動状況	4
	(1) 教育委員会の開催	
	(2) 北村山教育会基金の運用状況	
	(3) 北村山教育賞等の表彰	
	(4) 北村山教育会基金助成金の交付	
3	北村山視聴覚教育センター 運営方針・重点事業	6
4	運営委員会の開催状況並びに委員の意見等（学識経験者の知見の活用）	8
	(1) 運営委員会の開催	
	(2) 運営委員の意見	
5	点検・評価対象事業一覧と総合評価	10
	令和5年度北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書	12

## 1 北村山広域行政事務組合教育委員会事務事業の点検・評価について

### (1) 制度の概要及び目的

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成20年4月1日施行）により、教育委員会は権限に関する事務の管理及び執行状況について自ら点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表しなければなりません。

北村山広域行政事務組合教育委員会ではこの法律の主旨に則し、効果的な教育行政の推進に資するため、年度毎に事務事業を点検・評価し報告書を作成します。

### (2) 点検・評価の対象事業

本報告書の点検・評価の対象事業は、令和5年度に実施した北村山視聴覚教育センター運営方針・重点施策に基づいた主要な事業を対象としています。

### (3) 点検・評価の方法

点検・評価の対象とした事業は、それぞれの事業ごとに「事務事業点検・評価書」を作成し「必要性」「効率性」「有効性」等の観点から総合評価したうえで、今後の方向性として、「継続・拡大」、「見直・改善」、及び「縮小・廃止」に区分して明確化しました。

## 2 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員会の開催

令和5年度は、2回の教育委員会会議を開催しました。

ア 令和5年10月26日 令和5年第2回教育委員会会議

議案 北村山教育賞等の表彰候補者について

イ 令和6年 2月 6日 令和6年第1回教育委員会会議

議案 令和6年度北村山広域行政事務組合教育に関する予算要求について

### (2) 北村山教育会基金の運用状況

基金の令和5年度末現在高は、1,721万5,753円です。

(単位：円)

区 分		前年度末 現在高	決算年度中増減高		決算年度末 現在高
			増	減	
北村山教育会基金	現金	18,022,341	361	806,949	17,215,753

(3) 北村山教育賞等の表彰

令和5年度は、北村山教育賞3名、北村山教育奨励賞1団体を表彰しました。

- ・北村山教育賞            長瀬 ほのか（東根市）  
                                 赤平 翔太（東根市）  
                                 大類 涼太（尾花沢市）
- ・北村山教育奨励賞    大石田町立大石田南小学校 令和3年度4年生

(4) 北村山教育会基金助成金の交付

令和5年度は、3団体に北村山教育会基金助成金を交付しました。

- ・北村山地区指導主事連絡協議会
- ・北村山地区小・中学校長会協議会
- ・北村山図書館協議会

### 3 北村山視聴覚教育センター 運営方針・重点施策

#### 運営方針

北村山広域市町村圏における新しい未来を創る子供たちの育成を目指し、超スマート社会（Society 5.0）における視聴覚教育（ICT教育）を促進・支援し、時代の変化に即した教育方法と指導内容の改善充実に努めるとともに、教育の情報化の進展を図る。

#### 1 研究と研修活動

学校教育・社会教育等に関する教育メディア活用の研修を計画的に開催するとともに、適宜相談に応じて指導助言を行う。

また、各種事業を通して視聴覚教育に関する調査研究を行う。

#### 2 学習情報の提供

学校教育・社会教育等に必要新しい教育メディアの収集や、地域性を生かした教材の制作を行い、利用者に提供する。

#### 3 施設利用の学習

施設利用学習については、利用者それぞれの教育目標の達成のために効果的に行われるように努める。

また、学校教育・社会教育関係者等が自主的に研修する場として施設を提供する。

#### 4 連絡提携と広報活動

視聴覚教育センターの機能を周知し利活用していただくため、また事業について参加をしていただくために、行政機関、学校教育関係機関、社会教育関係団体、地域団体等と連絡提携を図るとともに、SNS、マスメディア等を活用して積極的に広報活動を行う。

令和5年度 重点事業

1 研究と研修活動に関する事業

- (1) 視聴覚教育委嘱研究事業
- (2) ICT 教育推進事業
- (3) 各学校での学習に繋げる移動学習

2 視聴覚教材の制作、活用、保存に関する事業

- (1) 視聴覚教材の制作
- (2) 公式 YouTube チャンネルを利用した自作視聴覚教材のアーカイブ化の推進
- (3) 16 ミリフィルムの活用と保存

3 一般公開の充実

- (1) 幅広い層を対象としたイベントプラネタリウム
- (2) 他団体との積極的な連携

## 4 運営委員会の開催状況並びに委員の意見等（学識経験者の知見の活用）

### (1) 運営委員会の開催

令和5年度は、2回の運営委員会を開催しました。

#### ア 令和5年5月24日 第1回運営委員会

(ア)令和4年度センター事業報告

(イ)令和5年度センター運営、事業について

#### イ 令和6年1月31日 第2回運営委員会（オンライン）

(ア)令和5年度センター運営、事業経過について

(イ)令和6年度センター運営、事業（案）について

### (2) 委員の意見

#### 重点事業1 研究と研修活動に関する事業

(ア)視聴覚教育委嘱研究事業について

- ・奥山竜一委員（北村山地区中学校長会長 村山市立楯岡中学校校長）

本校の教員が委嘱研究員を務めており、ICTを活用した学びについて実践し、まとめる機会をいただいた。本人はもちろん、校内で実践内容を共有することで、学校全体の指導力向上につながった。

(イ)ICT教育推進事業について

- ・古原常能委員（県立楯岡特別支援学校校長）

ICT活用事例集の発行など、小中学校を中心にICTを活用した様々な実践を発信していて素晴らしい。今後、本校からも特別支援教育の分野における効果的な活用について積極的に事例提供していきたい。

- ・鈴木紀恵委員（鷹巣絵本読み語りの会会長）

大石田町内の学校で絵本の読み聞かせ活動をしているが、学校には文字を読むことが困難など、特別な支援を必要とする子どもが必ず一定数いる。こういった子どもたちを取り残さないという視点でも、学校における効果的なICT活用を推進してもらいたい。

- ・笹原良子委員（北村山地区小学校長会長 東根市立東根小学校校長）

ICT関係の研修をオンラインで実施してもらうことで、多くの教員が参加しやすかった。また、校務アカウントを使った研修も行われるようになってきており、そういった環境を整えてもらえるのは大変ありがたい。

## 重点事業 2 映像教材の制作、活用、保存に関する事業

### (ア)映像教材制作事業（自作視聴覚教材制作）について

- ・長瀬広幸委員（学識経験者 東根市教育委員会管理課教育支援専門員）

令和5年度の北村山地区自作視聴覚教材コンクールの入賞作品を拝見したが、どれも素晴らしい内容だった。特に児童生徒部門の作品は、総合的な学習の時間の成果を作品化する好事例として、他の学校の学びの模範になる。また、ICTスキルの向上にもつながる。

- ・古原常能委員（県立楯岡特別支援学校長）

令和5年度にセンターが制作した、湯野沢熊野大祭をテーマとした映像教材を拝見した。湯野沢だけでなく、各地域にこういった伝統的な文化があるわけだが、いま地域の人口減少等の事情により、しだいにその伝承が難しくなっている。これらの優れた文化を未来につないでいくためにも、センターによる映像制作事業は重要であると考えている。

### (イ) 公式 YouTube チャンネルを利用した視聴覚教材の保存・アーカイブ化について

- ・平山康介委員（株式会社ペソラワークス代表取締役）

センターでアップしている自作視聴覚教材というのは、決して多くの人为主体的に見ようとするものではないと思う。そういった意味では、この事業は利益を目的とする民間企業では行いにくい。しかし、アップされている教材は、過去と未来をつなぐ貴重なものだと思う。伝統を後世に残していくために、今後も事業を継続してもらいたい。

## 重点事業 3 一般公開の充実

### (ア)幅広い層を対象としたイベントプラネタリウムについて

- ・笹原良子委員（北村山地区小中学校長会長 東根市立東根小学校長）

提示の仕方を工夫したり、様々な客層に対応したイベントを展開したりすることで、多くの人を楽しめるプラネタリウムになっている。

※運営委員は、北村山広域行政事務組合立視聴覚教育センター条例施行規則第6条に則り、北村山広域市町村圏内社会教育団体関係者、北村山広域市町村圏内小中学校教職員、教育関係機関の職員及び学識経験者より委嘱又は任命しています。

## 5 点検・評価対象事業一覧と総合評価

各重点事業のうち○印を付した事業、及び総務全般について点検・評価を実施した。

[ ] 内は総合評価

### 重点事業1 研究と研修活動に関する事業

○視聴覚教育委嘱研究事業 [A]	1 1
○ICT教育推進事業 [A]	1 2
○移動学習 [A]	1 3
○職員の研修 [A]	1 4

### 重点事業2 映像教材の制作、活用、保存に関する事業

○映像教材制作事業（自作視聴覚教材制作） [A]	1 5
○映像教材の保存・アーカイブ化 [A]	1 6
○16ミリフィルムの活用と保存 [B]	1 7

### 重点事業3 一般公開の充実

○天文関係事業 [A]	1 8
○一般公開事業 [A]	1 9

### 総務全般

○北村山教育会基金事業 [A]	2 0
-----------------	-----

### \* 各事業の評価基準

評価項目	評価の視点	評価結果	点数
必要性	広域行政として行うべきか。 地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	3
		一応必要性ある	2
		必要性低い	1
効率性	投入された資源量に見合った効果が得られるか。	効率的である	3
		一応効率的ある	2
		効率的でない	1
有効性	目的に対して事業が有効か。 事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3
		一応効果がある	2
		効果がない	1
総合評価	上記（必要性+効率性+有効性）の合計点数により評価。	継続・拡大（9～8点）	A
		見直・改善（7～5点）	B
		縮小・廃止（4～3点）	C

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	視聴覚教育委嘱研究事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6.5.31
------	--------------	-----	-------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内小・中学校の教職員	内容	研究員 2年目 村山市立楯岡中学校 教諭 阿部 友典 東根市立第二中学校 教諭 松村 侑 尾花沢市立尾花沢小学校 教諭 鈴木 千畝 大石田町立大石田小学校 教諭 東谷 大輔  全国研修会への参加 10/27～10/28 第49回全日本教育工学研究協議会全国大会（青森）  公開授業研究会（ハイブリッド開催） 9/20 村山市立楯岡中学校 10/24 東根市立第二中学校 11/ 9 大石田町立大石田小学校 11/28 尾花沢市立尾花沢小学校  2年次発表会（オンライン開催） 実施日：2/14 参加人数：管内小中学校教職員23人  ICT活用事例集（第5集）へ研究のまとめの報告（2月末）	事業費	498千円					
	目的	研究員（各市町1名ずつ及び希望者）を委嘱し、教科目標を達成するためのICTを用いた効果的な学習指導法の開発や、プログラミング教育の実践研究を推進する。				歳入（補助金等）	国	県	その他	0千円 0千円 0千円	
			歳入（一般財源）	498千円							

2 事務事業評価（令和五年度事業）	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針
		点数				
必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	運営委員より、委嘱研究員による研究・実践は、研究員のスキルアップのみならず、各所属校のICT活用推進にもつながった、という意見をいただいている。加えて、他の教員の学びの機会としても重要であり、今後も必要性が高い事業である。			
	一応必要性ある	2				
	必要性低い	1				
効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	各市町の教育委員会としても委嘱研究員の研究報告は有用であり、その実践事例をもとにした研修や情報交換等が行われた。			
	どちらかといえば効率的	2				
	効率的でない	1				
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	委嘱研究員を中心に授業でのICT活用の意識が高まっている。活用の在り方について検討する公開授業研究会には、各回10～20名程度の教員が参加した。			
	一応効果がある	2				
	効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9～8点)	Ⓐ	研究員を委嘱した授業研究は、今後も継続していく。			
	見直・改善(7～5点)	Ⓑ				
	縮小・廃止(4～3点)	Ⓒ				

## 令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	ICT教育推進事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6.5.31
------	--------------	-----	-----------	---------	--------------	-----	---------

<b>1</b>	<b>事業内容</b>	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度
		対 象	地区内小・中学校の教職員	<b>内 容</b>	小中学校情報教育研修会 著作権法35条改正内容や、情報モラル教育についての研修会を実施。 実施日：5/11(37名)  視聴覚教育講演会(オンライン開催) 視聴覚・情報教育に関して、外部講師による講演会を2回実施。  実施日：6/29(47名)・8/1(20名) 講師：静岡大学 准教授 塩田真吾 氏	事業費	40千円			
		目 的	視聴覚・情報教育に関して、外部講師による講演会を実施し、管内のICT活用の推進に寄与する。				歳入(補助金等)	国	県	その他
							0千円	0千円	0千円	
目 的	視聴覚・情報教育に関して、外部講師による講演会を実施し、管内のICT活用の推進に寄与する。	歳入(一般財源)	40千円							

<b>2</b>	<b>事務事業評価(令和5年度事業)</b>	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	視聴覚教育講演会の内容を2回シリーズとし、1回目は情報モラルの理論編、2回目は実践編と、現場の教員が計画的な指導について学ぶことができるようにした。需要が減ったICT基礎講座を廃止した。
		点数				
<b>2</b>	<b>事務事業評価(令和5年度事業)</b>	<b>必要性</b> 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い ③	視聴覚・情報教育に関する研修会については、当センターに期待されているところが大きいと捉え、現場のニーズを捉えた研修会等を一層充実させていく必要がある。	前年度からの改善点	視聴覚教育講演会の内容を2回シリーズとし、1回目は情報モラルの理論編、2回目は実践編と、現場の教員が計画的な指導について学ぶことができるようにした。需要が減ったICT基礎講座を廃止した。
			一応必要性ある 2			
			必要性低い 1			
		<b>効率性</b> 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である ③	GIGAスクール構想の進行に合わせてセンターとして様々な研修の機会を提供することで、管内の視聴覚教育の全体的な底上げを効果的に行うことができた。また、講演会をオンラインで実施することで、多くの教員が参加することができた。	次年度への課題	ICTに関する研修会について、校内の情報教育担当者の参加は一定数あるものの、研修会の学びが校内で共有されているとは言い難い状況である。特別支援教育における効果的なICT活用にも力を入れていく必要がある。
			どちらかといえば効率的 2			
			効率的でない 1			
		<b>有効性</b> 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある ③	各種研修や指導主事による指導助言、ICT活用の事例提供等については、関係団体や運営委員等から高い評価を得ており、効果があったといえる。	今後の取組方針	視聴覚教育講演会の開催について、情報教育担当者だけでなく、管理職や生徒指導主任も参加するよう呼びかける。また、アーカイブ配信を行い、校内研修の資料として活用できるようにする。特別支援学校の協力を得ながら、特別支援教育における効果的なICT活用の事例も積極的に収集・発信していく。
			一応効果がある 2			
			効果がない 1			
<b>総合評価</b> 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点) ④	学習者用端末の活用に向けて、外部講師による先進的な事例等を聞くことで、北村山地区内の底上げを図ることができるので、今後も継続していく必要がある。	今後の取組方針	視聴覚教育講演会の開催について、情報教育担当者だけでなく、管理職や生徒指導主任も参加するよう呼びかける。また、アーカイブ配信を行い、校内研修の資料として活用できるようにする。特別支援学校の協力を得ながら、特別支援教育における効果的なICT活用の事例も積極的に収集・発信していく。		
	見直・改善(7~5点) ③					
	縮小・廃止(4~3点) ②					

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	移動学習	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6.5.31
------	--------------	-----	------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内幼保施設職員、小・中等学校の児童生徒		移動学習 ・天文教室 ・映画教室 ・情報モラル教室 ・プログラミング教室  令和5年度実績 合計157回	事業費	1673千円					
	目的	地区内幼保施設、小・中学校、社会教育関係団体を対象として、天文学習や映画教室、情報モラル教室、プログラミング教室を行い、児童の学習をサポートする。			歳入(補助金等)	国	県	その他			
						0千円	0千円	0千円			
歳入(一般財源)	1673千円										

2 事務事業評価 (令和5年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針
		点数				
必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	プラネタリウムを持つ地区内唯一の施設として、今後も移動学習を実施していく必要がある。ICT教育に関しても、視聴覚教育センターとして移動学習の中で実施していく必要がある。			
	一応必要性ある	2				
	必要性低い	1				
効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	児童生徒の天文に関する理解を促すには、プラネタリウムの活用が効果的である。情報モラル教室やプログラミング教室に関しても、専門性の高いセンター指導主事が実施することで、より効果があった。			
	どちらかといえば効率的	2				
	効率的でない	1				
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	児童生徒を対象として授業に近い形で実施することで、参加した児童生徒だけでなく、引率の教職員にとっても大きな学びとなった。			
	一応効果がある	2				
	効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	プログラミング教育は低学年は初期指導を中心に行い、中高学年ではMESHセンサーを利用した学習を行っていく。			上記の理由から、児童・生徒向けの情報モラル教室は令和6年度以降は行わない。ただし、各校において日常的に情報モラル教育を行うことができるよう、教員向けの講座や指導助言についてはできる限り対応する。
	見直・改善(7~5点)	Ⓑ				
	縮小・廃止(4~3点)	Ⓒ				

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

事務事業名	1 研究と研修活動の充実	事業名	職員の研修	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6. 5. 31
-------	--------------	-----	-------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	センター職員	内容	全国研修会等への参加 ・日本教育工学研究会全国大会 ・New Education EXPO ・全国視聴覚教育連盟 総会・理事会 ※オンライン参加 (上記の他、GIGAスクール構想や天文分野に関するオンライン研修会に多数参加)  参考図書購入 ・月刊 視聴覚教育 ・学習情報研究 (上記の他、学習指導や天文分野に関する書籍を購入)	事業費	302千円					
	目的	外部団体の研修に参加することで、職員の見識を高める。研修での学びを管内での研修内容に反映させ、管内におけるICT活用の底上げを図る。			補助率	国	県	その他			
			0千円	0千円	0千円	歳入(一般財源)	302千円				

2 事務事業評価(令和5年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	参集型の研修が主流になったことから、積極的に現地での研修に参加した。	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	管内のICT教育の中核として、全国の先進的な研究や実践に関する研修を積むことができている。各種センター事業の折に、利用者に対して還元できる部分も多く、今後も積極的に全国規模の研修に参加をしていく必要がある。	次年度への課題	全国大会での講演を聞くだけでなく、先進地や先進校の実践を視察し、管内の学校でも実践可能な事例や情報を収集する。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	センター職員が先進的な実践の研修を積むことで、管内に広くその成果を広げることができた。	今後の取組方針	様々な全国大会が参集型で開催されるようになっており、センターの重点事業の内容と照らし合わせ、精査して参加する。併せて先進地や先進校の視察を積極的に行う。
		どちらかといえば効率的	②			
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効率的でない	1	新しく視聴覚教育センターに就いた職員が研修を積むことで、職員の育成に繋がっている。			
	効果がある	③				
	一応効果がある	2				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	効果がない	1	全国の先進的な取り組みを素早くキャッチするため、今後も継続して参加をしていく。ただし、参加する研修会が固定化しているため、他の研修会情報も積極的に収集していく必要がある。			
	継続・拡大(9~8点)	①				
	見直・改善(7~5点)	B				
	縮小・廃止(4~3点)	C				

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 映像教材の制作、保存活動の充実	事業名	映像教材制作事業(自作視聴覚教材制作)	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6. 5. 31
------	-------------------	-----	---------------------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内幼保施設職員、小・中・高等学校の教職員、社会教育関係団体、一般	内容	北村山自作視聴覚教材コンクール 北村山地区内の小中高等学校および地域住民に広く公募し、自作視聴覚教材のコンクールを実施する。 実施日：審査会(11/20)、表彰式(12/13) ・学校教育部門 1作品 ・社会教育部門 3作品 ・児童生徒作品部門 2作品	事業費	92千円					
	目的	学校教育・社会教育の幅広い分野で、自作視聴覚教育教材の制作を積極的に奨励するとともに、その制作技術の向上に資するために開催する。				歳入(補助金等)	国	県	その他		
					歳入(一般財源)		92千円				
							0千円	0千円	0千円		

2 事務事業評価(令和5年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針				
		点数								
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	自作視聴覚教材制作はセンター・ライブラリー機能の面で重要な事業であり、北村山管内の各教育団体が主体的に教材制作を行えるよう、センターが支えていく役割を担う必要がある。	前年度からの改善点	例年、コンクールの案内は9月頃に行っていたが、5年度は6月中には各所に実施要項とチラシを発送し、積極的に制作・出品を呼びかけた。				
		一応必要性ある	2							
		必要性低い	1							
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3		自作視聴覚教材コンクールについては、早い時期からチラシを配布するなどして出品数の増加を図った結果、前年度よりは出品数が増加したものの、十分な効果は得られなかった。		次年度への課題	コンクール出品数の増加と、教材としての質の向上。		
		どちらかといえば効率的	②							
		効率的でない	1							
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③		出品された作品は、小学校での読み聞かせや公民館での上映等、コンクール後も活用されている。学校教育においては、情報機器の活用力や表現力の育成が重要視されてきており、教材制作によって児童生徒のこれらの能力を育成するという面でも効果がある。		今後の取組方針		一人一台端末の整備によって、各学校では子どもたちが映像やデジタルコンテンツ等、教材に資する作品を制作する機会が多くなってきている。コンクール出品の前段階として、これらの作品をセンターが積極的に集めて認知し、教材性の高いものについては出品してもらうよう呼びかけていく。	
		一応効果がある	2							
		効果がない	1							
	総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	①		自作視聴覚教材制作は、センター・ライブラリー機能の面で、センターが担うべき役割の1つである。また、学校や社会教育団体等において定期的に自作視聴覚教材の制作が行われている点からも、今後も継続して実施していく。		今後の取組方針			一人一台端末の整備によって、各学校では子どもたちが映像やデジタルコンテンツ等、教材に資する作品を制作する機会が多くなってきている。コンクール出品の前段階として、これらの作品をセンターが積極的に集めて認知し、教材性の高いものについては出品してもらうよう呼びかけていく。
		見直・改善(7~5点)	②							
		縮小・廃止(4~3点)	③							

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 映像教材の制作、保存活動の充実	事業名	映像教材の保存・アーカイブ化	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6.5.31
------	-------------------	-----	----------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	一般	内容	<p><u>映像教材の保存・アーカイブ化</u> 北村山地域の伝統文化、伝承行事等を映像作品として保存、伝承する事業。教材に適した映像素材であるかどうかを判断し、計画的に撮影および編集等を行う。各専門部会の活動にも制作活動を位置づけ、部会員と連携を図りながら制作する。</p> <p>作品を収める媒体は、DVDおよび公式YouTubeチャンネルとする。 ・地域に伝わる祭り～湯野沢熊野大祭～ ・北村山の温泉(社会教育専門部会制作)</p> <p><u>北村山視聴覚教育センター公式YouTubeチャンネルの運用 (R6.3.31現在)</u> ・動画本数:327本 ・チャンネル登録者数:655 ・総視聴回数:164,448回</p>	事業費	745千円					
	目的	古くから受け継がれてきた行事や伝統芸能などを映像として保存し、永く後世に伝えていく。				歳入(補助金等)	国	県	その他		
		0千円	0千円	0千円							
		歳入(一般財源)	745千円								

2 事務事業評価(令和5年度事業)	評価項目	評価結果		理由・問題点など	前年度からの改善点	特になし
		点数				
必要性	広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	自然や歴史、伝統文化、先人の業績など、郷土の学びに資する映像教材を制作・保存することは、北村山の未来を拓く人づくりを進めるとともに、これらを後世に伝えていくうえで重要である。地域を題材とした映像は、貴重ではあるが収益性が低く民間企業には制作が難しいため、今後もセンター事業として継続していく必要がある。	前年度からの改善点	特になし
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
効率性	投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	デジタル媒体をインターネット上に動画投稿する効率性は、DVDパッケージを製作する労力より効率的であった。制作物も品質をそのままに保存できることから動画投稿サイトの利用は有用であった。	次年度への課題	北村山視聴覚教育センター公式YouTubeチャンネルの登録者数と視聴者数の増加。
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
有効性	目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	インターネット上への動画投稿により多くの貴重な作品が視聴できるようになったことから、地区の伝統文化の価値を多くの人々に伝えるために大変有効である。	今後の取組方針	引き続き、メルマガやSNS、センターの事業説明や施設単位講習会、土曜日の一般公開の際など、折に触れて周知を行う。
		一応効果がある	2			
		効果がない	1			
総合評価	上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	A	視聴覚教育施設としての役割を果たすため、今後も撮影・保存活動を継続していく。	今後の取組方針	引き続き、メルマガやSNS、センターの事業説明や施設単位講習会、土曜日の一般公開の際など、折に触れて周知を行う。
		見直・改善(7~5点)	B			
		縮小・廃止(4~3点)	C			

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 映像教材の制作、保存活動の充実	事業名	16ミリフィルムの活用と保存	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6. 5. 31
------	-------------------	-----	----------------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	一般	内容	<p>16ミリフィルムの活用</p> <p>・12月～1月を16ミリフィルム作品の特別上映月間とし、懐かしい映像作品の一般上映や映写機(16ミリ・8ミリ)等の特別展示を行う。</p> <p>16ミリフィルムの保存</p> <p>・16ミリフィルム保有本数 約500本</p> <p>視聴覚設備・機器保守点検委託</p> <p>・視聴覚室内の設備(スクリーン等)や、16ミリ映写機等の保守点検。</p>	事業費	95千円					
	目的	16ミリフィルム作品を活用し、学校教育・生涯教育の振興を図る。映写機の操作方法を学び、幼保施設・学校・公民館・子供会・各種団体活動等で利用できるようにする。			歳入(補助金等)	国	県	その他	95千円		
			0千円	0千円	0千円						
					歳入(一般財源)	95千円					

2 事務事業評価(令和五年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針	
		点数					
必要性	広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	16ミリフィルムは、その歴史的経緯からしても視聴覚教育・映像文化の象徴である。公共視聴覚ライブラリーとしては、文化・歴史的な価値を大切にしながら、利用を供していく必要がある。	移動学習における視聴覚教育学習時では16ミリフィルムの使用を原則的に取りやめた(内容変更に対応しにくいため)。			
		一応必要性ある					③
		必要性低い					2
効率性	投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	現在製造されていない16ミリフィルムの良さを多くの方に提供していくため。上映期間を設定し効率よく行った。	次年度への課題			
		どちらかといえば効率的					3
		効率的でない					②
有効性	目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	社会全体として16ミリフィルムの活用場面が減少している中、その良さと映像技術の発展の歴史を後世に伝えるという点で効果があった。	今後の取組方針		16ミリフィルム上映は、土曜開館等では特別上映期間を設定するなどしながら可能な限り継続的に実施していく。	
		一応効果がある					3
		効果がない					②
総合評価	上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9～8点)	視聴覚ライブラリーとして16フィルムをしっかりと保管・活用していくことは重要である。多くの方に視聴していただく役割を担う立場であり、16ミリ映写機を活用した事業とも関連付けながら、利活用を図る。				
		見直・改善(7～5点)					A
		縮小・廃止(4～3点)					①

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 一般公開の充実	事業名	天文関係事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6.5.31
------	-----------	-----	--------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度			
	対象	一般	内容	<p>会員制親子星空教室「スターウォッチングクラブ」 小学生を対象に参加者を募り、天文学習や観望会を実施。 観望会は北村山天文愛好会と連携して実施。</p> <p>天文講演会(ハイブリッド開催) スターウォッチングクラブの一事業として実施。 ゲスト 鶴岡スペースステーション 佐藤涼子 氏</p>	事業費	90千円						
	目的	幅広い年代を対象に天文への興味関心を持ってもらうことや、天文教育を行う。				歳入(補助金等)	国	県	その他	0千円		
						歳入(一般財源)	90千円					

2 事務事業評価(令和5年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針
		点数				
2 事務事業評価(令和5年度事業)	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	スターウォッチングクラブは、すぐに定員に達する申込状況であり、天文愛好者の育成という点で重要な事業となっている。北村山において唯一プラネタリウムを所持する施設である点からも、必要性は高い。	天文講演会の開催方法をハイブリッドから完全オンラインに変更した。これにより開催の時期や時間帯の幅が広がり、講師との調整がしやすくなった。また、参加者数も前年度よりも増加した。	
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	インターネットを経由した申込などにより、効率的に多くの参加者を取り込むことができている。講演会を完全オンライン化したことで、効率よく開催することができた。		
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	イベント参加者のアンケート結果によると、天文現象に対する興味関心が高まったとの回答が多く、期待される効果が得られた。		
		一応効果がある	2			
		効果がない	1			
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	天文教育、さらにはキャリア教育の観点も踏まえ、今後も内容の充実を図っていくべき事業である。	親子星空教室の観望会については、引き続き北村山天文愛好会と積極的な連携を図る。天文講演会について、前年度に引き続き佐藤氏に講師を依頼したが、様々な視点から学びを深めるといった観点から、別の講師に依頼する方向で考えていく。		
	見直・改善(7~5点)	Ⓑ				
	縮小・廃止(4~3点)	Ⓒ				

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 一般公開の充実	事業名	一般公開事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R6.5.31
------	-----------	-----	--------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	一般	内容	<p>土曜一般公開 映画上映とプラネタリウム投影（年間利用者数 令和5年 1,688人）</p> <p>イベントプラネタリウム プラネタリウムの新しい魅力を発信するため、音楽とのコラボレーションや、睡眠をテーマにしたプラネタリウムを行う。 プラネタリウム100周年を記念した全国イベントと連動し、特別なイベントを行う。</p>	事業費	452千円					
	目的	プラネタリウム室や視聴覚室などの設備と、センター事業について多くの方に知ってもらうため一般公開を充実し、利用者の増加を図る。			歳入（補助金等）	国	県	その他	0千円		
				歳入（一般財源）	452千円						

2 事務事業評価（令和5年度事業）	評価項目	評価結果		理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針
		点数					
必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	イベントプラネタリウムは、いずれも申し込み開始から数日で満席に達するほど好評であり、運営委員からも高い評価を得ている。 土曜一般公開についても、地域住民に気軽にセンターを訪れてもらう機会を設けることが、貸出や学習室利用、観望イベント等への参加者の増加につながることから、必要性は高い。	前年度からの改善点 新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、イベント開催の各種制限をなくした。それに伴い、イベントプラネタリウムのオンライン配信については効率性の観点から行わないこととした。	次年度への課題 ゲストを招いてのイベントプラネタリウムは、予算やゲストとの日程調整等の都合があり、年数回にわたっての実施は難しい。	今後の取組方針 ゲストを招いてのイベントだけでなく、センター独自で開催できるミニイベントを2か月に1回程度のペースで実施する方向で検討していく。	
	一応必要性ある	2					
	必要性低い	1					
効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	一般公開の申込はWeb申込が全体の9割を超え、効率的に運営することができた。 新型コロナウイルスを取り巻く状況が変わったことにより、土曜日一般公開の集客率が向上し、効率性が高まった。	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針	
	どちらかといえば効率的	②					
	効率的でない	1					
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	イベントや一般公開をきっかけにセンター事業に興味を持ってもらうことで、利用者のさらなる増加につながった。	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針	
	一応効果がある	2					
	効果がない	1					
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	①	地域住民にセンターを知ってもらい、利用者数の増加につなげるため必要な事業である。今後も社会状況に合わせて展開の仕方を工夫し、継続して行っていく。	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針	
	見直・改善(7~5点)	B					
	縮小・廃止(4~3点)	C					

令和5年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	総務全般	事業名	北村山教育会基金事業	所管課等・係名	広域 庶務係	作成日	R6. 5. 31
------	------	-----	------------	---------	--------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山広域行政事務組合	事業箇所	北村山広域行政事務組合教育委員会	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象		内容	基金名：北村山教育会基金 基金額：17,215,753円（R6.3現在） 事業内容：顕彰事業（北村山教育賞、北村山教育奨励賞）、北村山教育関係団体への助成事業  助成団体：北村山地区指導主事連絡協議会、北村山地区小・中学校長会協議会、北村山図書館協議会	事業費	1,134千円					
	目的	財団法人北村山教育会の解散に伴う基金を基にした北村山の教育の振興				歳入（補助金等）	国	県	その他		
							0千円	0千円	1,134千円		
歳入（一般財源）						0千円					

2 事務事業評価（令和5年度事業）	評価項目	評価結果		理由・問題点など	前年度からの改善点	特になし
		点数				
必要性	広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	北村山教育会基金を基に、顕彰事業や助成事業を行っていく必要がある。	前年度からの改善点	特になし
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
効率性	投入された資源量に見合った効果が得られるか。	効率的である	③	顕彰事業について、7月下旬に推薦依頼を发出し、9～10月に取りまとめおよび審査、12月に表彰式と、できるだけ流れを簡素化してスムーズに行った。	次年度への課題	特になし
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
有効性	目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	表彰や助成によって受賞者や助成団体の活動の幅が広がり、管内の学校教育および社会教育のさらなる発展につながっている。	今後の取組方針	今後も、顕彰及び助成を継続していく。
		一応効果がある	2			
		効果がない	1			
総合評価	上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9～8点)	Ⓐ	概ね達成した。	今後の取組方針	今後も、顕彰及び助成を継続していく。
		見直・改善(7～5点)	Ⓑ			
		縮小・廃止(4～3点)	Ⓒ			

